

2002年7月21日

最良の人生を生きる喜び

加藤 享

[聖書]出エジプト記20章1～21節 ◆十戒

20:1 神はこれらすべての言葉を告げられた。20:2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。20:3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。20:4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。20:5 あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、20:6 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。20:7 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかれぬ。20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。20:9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

20:12 あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。20:13 殺してはならない。20:14 姦淫してはならない。20:15 盗んではならない。20:16 隣人に関して偽証してはならない。20:17 隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

20:18 民全員は、雷鳴がとどろき、稲妻が光り、角笛の音が鳴り響いて、山が煙に包まれる有様を見た。民は見て恐れ、遠く離れて立ち、20:19 モーセに言った。「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞きます。神がわたしたちにお語りにならないようにしてください。そうでないと、わたしたちは死んでしまいます。」20:20 モーセは民に答えた。「恐れることはない。神が来られたのは、あなたたちを試すためであり、また、あなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするためである。」20:21 民は遠く離れて立ち、モーセだけが神のおられる密雲に近づいて行った。

[序]テロの危険にさらされている私たち

今からもう 20 年前のことになりましたが、長男が大学を一年間休学してフランスのパリの郊外にあるラルシュという知的障害者の家にボランティアに出かけて行きました。当時パリやロンドンでは、爆弾テロがよく発生していましたので、私たちはすぐには賛成できませんでした。せっかくここまで育ててきて片わになったり、死んでしまつてはたまらないと思ったからです。でも祈っているうちに、この子の本当の父である神さまがなさることなのだから、どんなことが起こってもそれを善いこととして受け入れなければと示され、送り出したのでした。無事に帰ってきてくれました。

先日ロスアンジェルスに暮らす長女が休暇をとってタイのコサムイに来ました。行き帰りに我が家に滞在しました。7月4日のアメリカ独立記念日に新たなテロ事件が起こる恐れが

あり、厳しい警戒態勢がしかれて社会生活がいろいろ規制されるので休暇を取ったのだそうです。今日の世界は、いつ何処でテロが発生し、殺されるか分からない不安に満ちています。でも皆さん、これは爆弾や銃によるテロだけではありません。私たちの生活は、悪魔による道徳的なテロ破壊活動によって激しく揺さぶられて居ります。

先日の The Straits Times に、台湾の有名な牧師が記者会見で土下座して謝っている写真が大きく載っていました。14 才から 16 才の少女 3 人と性的にいかがわしいゲームを繰り返した罪を親から訴えられ、裁判にかけられたからです。彼は以前に、泥棒や麻薬・銃の不法所持で幾度も刑務所生活を繰り返していたそうですが、13 年前にキリストの救いにあずかり、牧師になった人です。その劇的な回心が人々の心を打ち、世間の注目を集めるようになっていたのです。

丁度その新聞が出た次の日に、大川牧師の伝道集会があり、元ヤクザだった井上さん・中島さんの証を伺いました。映画「親分はイエス様」の主人公の方々です。「極道の限りを尽くした自分たちでもこのように救われました。神さまが救えない人間は一人もいません。どんな人間でも新しい人生を始めることができます」ということを身をもって証するのですから、説得力があります。その翌日の Faith Community Baptist Church の集会は満員、大勢の人が決心に導かれました。しかし集会で井上さんが言った言葉が私の心に今も残っています。「だんだん有名になってきました。墮落しないようどうか祈っててください」

アメリカでは、カトリック教会が大勢の神父の性的不道徳で大揺れです。プロテスタントでもスーパースターの伝道者として活躍した人たちの中に、途中で失敗し悲惨な末路をたどったケースが数多く見られるそうです。21 才で献身した者が 65 才まで忠実に神に仕えて働いている割合は 10% に満たないという統計もあります。(リバイバル新聞 5 月 19 日) そうすると私などアメリカでは、長い年月無事に生き残った数少ない牧師ということになります。信仰者を途中でダメにしてしまうのは、プライド・金・肉による歩みだと指摘されていました。悪魔の誘惑は本当に強力で恐ろしいものです。牧師・神父だから大丈夫とはいえません。この世界には道徳的安全地帯はないのです。

[1] クラーク博士が残した人格教育

では悪魔の誘惑が強く働いているこの世で、正しく生きていくためにはどうしたらよいでしょうか。それには自分の心の中に正しい掟をもち、毎日その掟を守ろうと心がけながら生きることです。そしてその掟は、ある国とかある時代にだけ通用するものではなく、時代が変わろうと、世界中何処でも正しいものとして受け入れられるものでなければなりません。

私は子どもの頃、日本の精神・日本の道徳が世界で最も優れているから、誇りをもって大切にしようにと教育されました。そして道徳の根源である天皇に忠誠を尽くすことが、人間として正しく生きることだと教えられました。ところが戦争に負けても、天皇は戦争の責任をとりませんでした。学校の校長先生は学校の行事で、事故が発生して生徒が死ぬようなことが起これば、辞職しました。ところが天皇は戦争で国民が 310 万人も死んだにもか

わらず、切腹するどころか辞めもしなかったのです。私は日本の道徳の根源だと信じていた天皇に深く失望しました。そして普遍性をもった掟に従わなければ、自分も国も滅びることがよく分かったのです。

日本のプロテスタントの信仰の発生地は、横浜・熊本・札幌です。札幌の場合は「青年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)」の言葉で有名な Dr. William Clark の感化を受けた青年たちから始まりました。クラークは北海道開拓使長官の黒田清隆に招かれ、札幌農学校初代教頭として明治 9 年(1876)に来日しました。

彼は横浜に上陸して、昼間から酒に酔って醜態をさらしている若者を幾人も見かけて驚きました。そこで横浜から苫小牧までの船旅の途中で、アメリカから持ってきたブランデーの箱を全部海に投げ捨て、札幌滞在中はアルコールを一切口にしなかったそうです。彼は聖書も沢山持って来ました。聖書をもって生徒の人格教育をしようとしたのです。黒田長官は国立学校だからそれは困ると反対しましたが、それでは教育に責任が持てないからアメリカに帰ると言われて、仕方なしに許可したそうです。

クラークは聖書を教え始めてしばらくしてから、「耶蘇の信徒の誓約(イエスを信じる者の誓約)」を書いて第一期生に示しました。すると 16 人全員が署名し、翌年に入学した第二期生 15 人もそれに署名したそうです。クラークは僅か 10ヶ月しか札幌に居ませんでしたので、第二期生は直接クラークの教えに接していません。しかしこの誓約にこめられたクラークの信仰は大きな影響を二期生にも与え、彼らの中から宮部金吾、内村鑑三、新渡戸稲造などの優れた信仰者が出たのです。

この誓約は二部から成っており、罪を贖うキリストの救いを信じること、それゆえに十戒を守る生活を送るというものです。すなはち十戒を守る生活が彼ら若者たちの信仰生活のしっかりとした枠組みとなり、札幌バンドの若者たちの成長を導いたのです。ちなみに宮部金吾 17 才、内村鑑三 16 才、新渡戸稲造 15 才の時に誓約しています。

主の祈りと共に、キリストに対する信仰の告白と十戒をはっきり口に言い表す礼拝プログラムは、クラークが養われた改革派教会の伝統で、スイスの宗教改革者カルヴァンの礼拝改革の基本だそうです。15 才から 17 才といえばシンガポールの secondary school の生徒です。僅か 10ヶ月間しか教えずに帰国したにもかかわらず、後から入学してきた生徒たちにまで素晴らしい生涯を送らせた教育の成果は、とりもなおさず「耶蘇の信徒の誓約」が生み出したものに他なりません。キリスト信仰と十戒を心に刻むことがどんなに大切かを改めて知る思いがします。そこで 7 月 8 月は、十戒を学ぶことにいたしました。

[2]神の自己紹介

神さまは、紀元前 13 世紀エジプト王ラメセス II 世の時に、モーセを指導者に立ててイスラエルの民をエジプトから救い出されました。そして 3ヶ月目にシナイの荒れ野の山でモーセを通して、イエスラエルの民に十戒をお授けになりました。この戒めは二枚の石の板に記

され、契約の箱に収められ、イスラエルの民は常に契約の箱と共に行動することになりました。第一の板には、神さまに対する態度、第二の板には、隣人に対する態度の戒めが記されています。

先ず出エジプト記20章2節に注目しましょう。「わたしは主(ヤハウェ)、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」これは神さまの自己紹介です。神さまとはどういうお方なのでしょうか。私にどんなことをしてくださるお方なのでしょうか。ここで神さまは、ご自分がイスラエルの民にどんな事をしてくださったかを単純明快に語っておられます。それは奴隷から自由人への解放者でした。

奴隷とは人間らしく生きていけない状態をいいます。貧しさや弱さの故に、周りから人間扱いされなくなっている場合もあるでしょう。あるいは自分の意志の弱さから自分で人間らしく生きられなくなっている場合もあるでしょう。また強い者の理不尽な暴虐によって、しいたげられている場合もあります。しかし神さまはそのような奴隷状態から私たちを救い出し、神さまから与えられた本来在るべき姿をもって自由に生きていけるようにしてくださるお方なのです。

私たちはどうでしょうか。神さまから自由な身にしていただいたという自覚が明確でしょうか。私は丈夫な体に自信がありました。ツベルクリンが陽転したのに、医者忠告を無視してスポーツに打ち込んで肺結核を発病させ、一年休学をしました。しかし回復したら今度は野球に没頭してとうとう喀血し、肺の手術を受け、長期療養を余儀なくされました。高校を卒業できなくて検定試験で済ませ、進みたい大学にも入れませんでした。そして友人たちから取り残される孤独と挫折感を深く味わいました。親に大変な苦勞をかけました。

しかし自分の体を自分の思い通りに使って生きることは、決して自由な生き方ではありません。むしろ自制心がきかぬままに自分の思いの奴隷になって、破滅の道をつっ走っているのです。私は神さまと向き合うことによって、自分の体は神さまからお借りしているもの、神さまのものだから大切に用いなければならないのだということがよく分かってきました。そして自分をいつも心身ともに最上の状態にして、神さまの御用に当たろうと良く注意して生きることが出来るようになりました。ですから現在は大変良い健康状態です。

5月にマンションの大がかりな電気工事で3日間日中電気がストップする不自由さを強いられました。電灯も扇風機もない食堂で食事をする陰気臭さに困り、そうだとベランダを使おうと気が付きました。そよ風が吹き、植木鉢に囲まれてそれは爽やかなのです。食べ物を運ぶ手間など全く苦になりません。今のマンションに引っ越してきて3年間、去年ベランダの工事をしてからでも丸一年間、このように気持ちの良い食事ができることに気が付かずに来た愚かさに我ながらあきれました。宝の持ち腐れとはまさにこのことです。これと同じように、もっとよい考えや生き方が他にあるのに、自分のこれまでしてきたことをなかなか変えられないで、二流・三流の人生で収まってしまっている――これもある意味で奴隷状態と言えるのではないのでしょうか。

先日日本の若い牧師さんと電話で話をしました。「周りの人々が沈滞し、教会さえもパツとしていない。それにしても先生はハツラツとしていて羨ましいですね」と彼は言ってくれました。多少お世辞もあるでしょうが、自分でも生き活きとして毎日が楽しいな、本当に幸せだなと感謝して暮らしています。

63 才になって今までやってきたことを一切捨て去り、体一つで better half と、雪の都札幌から赤道直下のシンガポールにやってきました。日一日と体は確実に老い衰えていきます。でも毎日柔軟体操をし、竹刀・木刀で面打ち 350 本、週に一回は 6 キロ歩くようにし、5 回剣道の稽古に汗を流しています。75 才までは剣道八段の試験に挑戦していこうと自分を励ましています。日中の殆どの時間は、聖書のみ言葉の豊かさを皆さんにどうお伝えするか、その準備に没頭しています。

70 才になったのですから、将来のことがもう少し不安になってもよいはずですが、今のところ全くありません。死の苦しみを恐れることから解放されています。自己過信や誇り高ぶりからも自由になりました。日本での生活にしがみつ়くことからも自由にされています。私にとって神さまとは、本当に最上の人生を喜ぶ自由を与えて下さった解放者です。ですから私はこの神さまの掟に感謝をもって従っていこうと心から思っています。

[3]神の面前に立つ

では第一の戒めに入ります。3 節「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」英語の King James Version では ”Thou shalt have no other gods before me.” 文語訳では「汝わが面(かお)の前に、我の外何物をも神とすべからず」となっていました。

剣道では、相手の真正面に我が身を置き、相手の目を見据えながら相手の全身を捉え、相手の心の動きを察知して、全身全霊を込めた攻防をする修練を積み重ねていきます。相手と自分の間に邪念を入れてはなりません。瞬間の動きが乱れるのです。神さまの真正面に我が身を置き、真剣に神さまに向かう時には、神さまと私以外の何物も入る余地はありません。一対一で全身全霊を込めて相対峙することは、剣道以上に信仰においては大事なことでないでしょうか。

友だちは少ないより多いほうが良い。しかし一体となる夫と妻の場合は一対一、その間に他の何者も入る余地はありません。アブラハムとサラ夫婦になかなか子どもが生まれなかった時、サラはハガルにアブラハムの子を生ませて、跡取りにしようと思いました。しかしアブラハムとサラとの間にハガルが割り込んでくることによって、夫婦の愛に亀裂が生じました。そこでサラはハガルを追い出してしまいます。(創世記 16 章) 随分手前勝手なひどい話です。でも夫婦の真剣な一体性と一夫多妻とは決して両立いたしません。

だとすれば、神さまと私との関係も当然一対一でなければなりません。もしも神さまを二人・三人持つことが出来るとすれば、その神さまと本当に一体となることを求めているからに他なりません。神さまと一体にならずに、どうして神さまの真実の命を受けることが出

来ましょうか。あっちの神さまと相談し、こっちの神さまにお願いして本当に真実の信仰が確立するのでしょうか。

我が子の一人が夜、私の部屋にやって来ました。歯が痛くなり出してたまらないのです。あいにく薬の買い置きが切れていました。明日は大事な算数の試験です。今度こそよい点を取ろうと勉強してきました。母親に訴えました。「パパに祈ってもらったら」と言われました。反抗期に入っていましたから、おいそれと私のところに来れません。でも痛みはますますひどくなります。とうとう我慢できなくなって私の部屋に来たのでした。

「よし、ではお祈りしてあげよう」と手を差し伸べますとあわてて言いました。「でもお祈りしても治らなかったら、私の信仰のせいだと言うんでしょう」「そうだよ。パパの所に助けを求めてきた人が、あんたに出来なかったら他の人に頼むなどと言うのだったら、では初めからそっちへどうぞと断るよ。神さま、私には貴方しかいません。どうかお願いしますと心を込めて祈らなければ聞かれないのは当然でしょ」

しばらくためらっていましたが「それでは、宜しくお願いします」と言いました。そこで手を置いて二人で真剣にお祈りしました。その後どうなったのか、その子から何の報告もないので私のほうがいささか気になりました。幾日かたってそっと聞いてみましたら「うん、痛みは治まったよ。試験も 100 点だったよ」といって、ケロリとしていました。神さまと真っ直ぐに向き合ってお祈りすることによって、この子は神さまに対する確信を得たのでした。

「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」神さまの前に立つのは私です。右を見、左を見てさてどうしようかという問題ではないのです。「あなたには——あってはならない」あくまでも私が問われています。私が全身全霊をこめて神さまの御前に立ち、真っ直ぐに神さまを見上げ、神さまから真剣に聞き、応答していくことが信仰なのです。そしてそこから人間としての真実さ・誠実さが生まれてくるのです。

[結]誠実に応答しつつ

「わたしは主(ヤハウェ)、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」神さまはイスラエルの民をエジプトの奴隷の状態から救い出し、自由な民にしてくださいました。そして神の民として生きていくために、十戒をお与えになったのです。

この私にとりましても、神さまは間違いなく最上の人生を喜ぶ自由を与えて下さった解放者です。老い衰えてきましたが、生き活きと感謝に溢れる毎日を送らせて下さっている素晴らしい解放者です。皆さんお一人お一人にとっても神さまは、様々な束縛から自由にして、伸びやかに最上の人生を生きるようにして下さる解放者のはずです。

この神さまと真っ直ぐに向き合って、神さまの語りかけを真剣にお聞きください。「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」とおっしゃいます。神さまは真実をこめて私と一体になろうとしておられるのです。私たちも神さまに誠実に応答していこうではありませんか。 完